

顧問新年随想

足と原付自転車

当会顧問
福島 静雄



入の左足と右足の機能の違いと原付自転車の運転との関係」をテーマにお話します。

原付車の交通事故は、交差点や道路の屈曲部で車がカーブするときによく発生します。原付車をカーブさせるには、四輪車のようにハンドルを切るのではなく、車を乗り手の体ごと車をカーブの内側に傾けること（バンク）が必要です。カーブがきつくなるほど、そしてスピードが上がるほど、傾斜を深くして遠心力に抵抗しなければなりません。そこに四輪車にない運転のむずかしさがあります。

に車体を傾ける右曲がりはどうも不安定性がある、やりにくさがある」と実感しています。なぜでしょうか？

話を足に移します。皆さんは一本足だけで立つとき、左右どちらの足で立つ方が安定しますか？それは左足でしょう。目をつぶって試してみると、はつきりわかるはずです。また自転車で発進するとき、最初にどちらの足をペダルに乗せて体を支えますか？走行中に一時停止するとき、地面につける足は？ これらも左足ですね。無意識の動作ですが……

が、実は両者には左足は軸足

右足は利き足（力の足）

という人体生理上の大きな機能差があり、神経的な働きも違っているのです。

ですから、原付車でカーブを切ること自体がむずかしい技ですが、その中でも、本来の軸足である左足が左傾斜の接地側（下側）に来るときよりも、右足が右傾斜の接地側に来るときの方が（左足は浮く）、不安定感が強まるわけです。右曲がりでは、よりすぐれた操作が必要になるゆえんです。

全部左回りに作られていることからも、よくわかるはずですよ。

以上が今回のテーマである、人体生理から見た右曲がりのむずかしさの説明です。

ただここで、交通が輻輳する実際の道路上で安全にカーブを切るためには、もう一つ大事な考慮要素があります。それは賢明な読者がお気付きのように、左曲がりをやさしいと過信してスピードを出しすぎると、反対車線にはみ出して対向車と衝突するという事です。これに對し右曲がりではみ出す場合は、路外逸脱になります。どちらも危険ですが、この反対車線へのはみ出しの方が路外逸脱より重大事故を招きやすいのが、現実の道路交通なのです。

な結果についても、あわせて認識しておいて頂きたいと思えます。

多くの原付車を使う事業所が、以上のような左右の足の機能差とその実際の影響について、もっとよく理解して下されば、安全で経済的なビジネス管理にさらに役立つと思います。車を使う上で、足と「おあし」との間には、どうも密接な関係があるようです。新春に当たり、足を大切に「足を出さない」年でありませう心から念じ上げます。

（元・中部管区警察局長）